



ラザロの墓
新約聖書の出来事⑥

今回の旅で、初めてラザロの墓を訪ねた。新約聖書ヨハネ福音書十一章によると、イエスにはエルサレム郊外のベタニアにラザロという友人がいた。彼にはマリアとマルタという姉妹がいた。ルカ福音書十章に姉妹の記述がある。兄弟・姉妹とだけ書かれているので正確にはわからないが、ラザロはこの姉妹の弟らしい。

イエスがベタニア近くを旅していた時、姉妹から「ラザロが病気で」という連絡が届いた

来なさい」と言われた。と、ラザロが手と足を布を巻かれたまま出てきたとある。

「ラザロの蘇生(そせい)」である。今回訪れたのはその墓と言われる所だ。一部の本に「ラザロの復活」とあるが、その表現は適当ではない。伝承によると、ラザロはその後、キプロスの初代主教になり、そこで死に、墓はキプロスにある。

復活は神がイエス・キリストを通して約束された永遠の新しい命に生きること。ラザロの蘇生の奇跡はイエスの行為を通して周囲の人々に神の存在を信じさせるための一時的なものだ。

読者のあなたはそんなことを信じるのかと言われるかもしれないが、神の存在を信じている。



ちよつと酸っぱいジュースを売る男性

ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサ

賞したマザー・テレサが先日、カトリック教会の中で最高の「聖人」とされた。バチカンでは余りなじみの神のために殉教した人、や二つ以上の奇跡を行なった人を聖人として称賛するが、私にはそんなことはたいしたことではない。彼女が神を信じ、修道女として生涯を貧しい人々のために生きたこと自体が奇跡と思える。

イエスは、ラザロ蘇生の奇跡やマザー・テレサの奇跡とも思える生き方に目を向けるだけなく、そんなことを起こせる神の存在を信じて生きなさいと言われているような気がする。

ラザロ蘇生の墓の近くにはラザロの教会があった。新約聖書の出来事の一つに教会が建てられ、後世に伝承していることを改めて



石の階段を降りるとラザロの墓があった